



開幕迫る上海万博

はじめに

中国で初めて開催される万博である「上海国際博覧会(上海万博)」が、今年5月1日に上海市で開幕します。参加国数や来場者数など「史上最大」となることが確実視されており、2008年の北京五輪に続いて中国の存在を世界にアピールする舞台となります。

今回は開催間近に迫った上海万博についてご紹介します。

1. 上海万博の概要

今回の上海万博には242の国や国際機関の参加が確定し、これまで最多だった2000年の独ハノーバー万博(約170団体)を上回ることになりました。

来場者目標は、1970年の大阪万博の記録(約6,422万人)を上回る7,000万人以上を掲げています。前売り入場券の販売実績は、1月現在で1,800万枚に達しています。また、上海市の副市長は1月18日の北京での記者会見で、期間中の来場者が1億人を超える可能性があること示唆しています。

上海万博のテーマは「より良い都市、より良い生活」です。急速に都市化が進む中国で未来の都市像を描こうというコンセプトですが、「環境への配慮なくして都市の持続的発展はない」との観点から、二酸化炭素(CO₂)排出量の少ない低炭素万博を目指しています。主要施設の一つである「テーマ館」では、屋根に巨大な太陽光発電システムを設置し、外壁を植物で覆うなど環境面をアピールしているほか、期間中、来場者に自分の出すCO₂



急ピッチで整備が進む上海万博会場

排出枠の購入を呼びかける計画もあります。

また、会場及びその周辺には電気自動車などの次世代エコカーを1,000台以上配置するほか、主要な建築物の景観照明、会場の8割以上の夜間室外照明にはLED照明が使われ、万博会場は世界最大のLED照明展示場にもなる予定です。

さらに、今回は万博史上初の試みとして「ネット万博」が同時開催されます。3D映像で実際の万博会場と同じコミュニティを作り、ネットユーザーが世界中のどこからでも臨場感ある万博を楽しめるようになります。

このように上海万博は、新興国での初の開催であるだけでなく、オンライン万博など新たなイベントの試みの場としても注目度は高くなっています。

概要

開催期間：2010年5月1日～10月31日

会場：上海市都心部、黄浦江兩岸の328ha

テーマ：「より良い都市、より良い生活」

参加国：192カ国と50国際機関(計242)

来場者目標：7,000万人(1日平均40万人)

マスコット：海宝(ハイバオ、漢字の「人」をイメージ)

入場券：通常日160元(2,100円)



2. 上海万博開催に向けた進捗状況

上海万博事務局の発表によると、5月開幕の上海万博会場の展示施設の整備は、1月時点で約9割が完工しています。主要施設や各国パビリオンの多くは、現在、内装段階に入っています。しかし、全体面積の3分の1を占める付属施設や道路などの整備は遅れ気味で、3月末の全面完工に向けて工事は急ピッチで進められています。

一方、史上最大規模を目指す上海万博を支えるインフラ整備についても、中国の国家威信をかけて、現在急ピッチで進められています。上海市内を流れる黄浦江の両岸に広がる会場と周辺を結ぶ交通路として、4本の橋と12本のトンネルが万博開幕までに開通する予定です。また、地下鉄についても、現行の11路線に加え、5月の開幕までに2路線が整備され、上海の地下鉄総延長は東京の304kmを大きく上回る420kmに達する計画です。

上海市内の観光地整備や観光客の受入れ準備にも余念がありません。黄浦江沿いに英国租界時代の建物が立ち並ぶ外灘^{わいたん}では、地下トンネルの建設と遊歩道の整備が行われています。ホテルの建設ラッシュが続き、開幕までに市内の宿泊用のベッド数は40万床に達する見通しです。それでも、ピーク時に1日78万人と予測されている万博来場客をカバーするには至らず、近郊都市の宿泊施設も必要になると言われています。

さらに、上海万博関連グッズの売上げは、2009年末時点で31億元(約413億円)に達しています。関連グッズの取扱店は現在27の省・



上海万博のマスコット「海宝(ハイバオ)」

市・自治区に638店舗ありますが、5月の万博開幕までに、オンラインショップなども含め8,000店まで拡大される計画です。日ごとに高まる万博ムードとともに、上海万博の開幕へ向け、消費拡大を見込んだサービス業の上海進出も活発になってきています。大手コンビニチェーンのセブンイレブンが、昨年4月に上海に初出店したほか、米玩具大手のマテルは昨年3月、着せ替え人形「バービー」旗艦店をオープンさせました。

3. 上海万博開催に伴う問題点と対応策

万博ムードが高まる一方で、インフラ建設工事に伴う市内の交通渋滞や、環境破壊などによる経済損失も小さくはありません。上海市内の至るところで、万博に向けた工事が急ピッチで進められており、以前にも増して街中が埃っぽくなっていると感じられます。

また、万博開催期間中も交通渋滞や来場者の流れをどう制御するか、テロ防止などの治安維持をどうするかなど様々な問題が残されています。

上海万博期間中の交通渋滞対策については、会場周辺7km²以内の一般車両の進入を禁止す



るほか、北京五輪を参考にナンバープレートの末尾数字による車両通行規制が検討されています。また、期間中、一部公用車の使用を禁止するほか、バイクの走行禁止路線も拡大するなどの対策が実施されます。但し、このような対策を取ったとしても、上海市当局は、一般市民を含め1日5,000万人と見込む交通需要に対応するのは難しいとみている様です。

交通インフラ整備についても遅れがでており、空の玄関の一つである虹橋国際空港と市内を結ぶ地下鉄の新路線は、開通時期が万博開催間際にずれ込むことになりそうです。

4. 上海万博の波及効果

上海万博開催は、インフラ整備等の大規模な投資とともに、万博に訪れる観光客による消費拡大などの経済効果が期待できます。

周辺のインフラ整備を含む万博の総事業費は、286億元(約3,720億円)にのぼると言われています。また、関連施設を含めると総投資額は日本円換算で約5兆円にのぼるほか、環境対策や来場者及び出展者の支出も合わせると、経済波及効果は25兆円にまで達するとの試算もあります。

また、今回の万博開催が、上海での軌道交通整備、都市再開発などを刺激し、上海周辺都市の交通インフラ整備にまで波及しています。また、2014年には上海ディズニーランド



上海市内で建設中の高層ホテル

も開業も見込まれており、観光の目玉が少ないと言われる上海にとって今後の観光業の発展も期待されています。

上海万博が、上海そして中国の経済・文化の発展を世界にアピールする機会になるとともに、世界各国が成長を続ける中国に向けて、最先端の技術や文化を紹介する機会になることでしょう。

上海が国際都市として、新たな発展のステージへ移って行くことを期待しています。

(上海駐在員事務所 田中 正洋)

大連編

株式会社丸美屋 ～大連美屋食品有限公司～

大連美屋食品有限公司は、熊本県玉名郡に本社を構える株式会社丸美屋の100%子会社です。当社は中国大連において、納豆の製造販売を営んでいます。

人口14億人を抱え、マーケットとして有望な隣国中国への進出は必要不可欠との考えから、進出を決断しました。大連を進出地として選んだのは、商取引を通じた友人が居たことや、同じ中国東北地区(いわゆる東北三省)には納豆の原料となる大豆の生産地として有名な黒龍江省があったからです。

主力商品の一つである豆腐は中国でもよく食されており、珍しい食品ではありません。一方、納豆は日本古来の食べ物であり、中国では馴染みが薄かったことに加え、輸入品は有ったものの値段が高く消費者層は限られ、一般の人は食べる習慣がありませんでした。そこで当社は2002年8月、市場が未開拓に等しく大きな可能性を秘めた納豆に商品を絞って工場を建設しました。

大連での製造販売はゼロからのスタートでした。途中から運営に携わり、現在も責任者として常駐されている川部氏に話を伺ったところ、一番苦労されたことは販売先の開拓ということでした。納豆を製造する技術については、日本から人的支援が十分にあったおかげで、大きな問題もなく製造を開始することができました。しかし、販売はゼロから開拓しなければならず、納豆という商品の知名度が極めて低かったことから、販売開始当初はあまり売れなかったといえます。原因を分析した結果、日系企業が経営する小売店・飲食店を中心に販売を行っていたことで、需要が一部に限られてしまい、一般の中国人には浸透していないことが分かりました。そこで、当社は日系企業が経営する小売店に加え、一般の中国人がよく利用する地元小売店への販売を強化しました。販売先が拡大するにつれて売上が伸び始め、今では大連市場の約90%を当社の製品が占めるようになりました。



川部氏の話では、中国での食品販売を成功させるには、日系企業が経営する小売店をターゲットにするのではなく、店舗数に勝り、一般的な中国人が数多く来店する地元小売店をターゲットにすることが重要となる様です。大多数を占める一般消費者に対して知名度を上げ、いかに購入して頂くかが売上を伸ばす秘策と語られていました。

今でこそ高い知名度を持ち順調に売上を拡大されていますが、ここに辿り着くまでには数多くのご苦労を重ねて来られたことがお話から窺えました。

中国で納豆が受け入れられるようになった理由として、営業努力はもちろんのこと、健康を意識した食生活について考える人々が増えてきたことが挙げられます。テレビ番組でも納豆が健康食品として紹介されるなど、幅広い層の人々に認知され、食されるようになりました。

消費者ニーズに上手く適合した商品作りに取り組む当社の更なる成長が期待されます。

(大連駐在員事務所 宮城 正志)

PROFILE

現地法人名 / **大連美屋食品有限公司**

住 所 / 大連市甘井子区華東路100号

T E L / +86 411 8652 4360

F A X / +86 411 8652 4075

親会社名 / **株式会社丸美屋**

住 所 / 熊本県玉名郡和水町内田2211

T E L / 0968 75 6000

F A X / 0968 75 6954